

## 生産現場で摘発した牛白血病の3症例

丹後家畜保健衛生所

○ 森 一 憲      黒田 洋 二 郎

【はじめに】地方病性牛白血病（EBL）は発症時期や症状が不定なため農場での摘発が難しく、と畜場での摘発も多い。農場での早期摘発の一助とするため、と畜場での摘発事例の調査及び農場での EBL 症例の病態の比較を行った。【材料及び方法】H22～26 年度の府北部と畜場での EBL 摘発状況及び搬入所見を調査。また、今年度、診療依頼のあった 3 症例の診断までの経過を比較。【結果】と畜場での摘発数は 3,612 頭中 42 頭。うち 18 頭が健康畜で病畜 24 頭の診断名は肝炎や関節炎等様々。農場摘発症例①黒毛和種雌 6 歳。熱射病を疑い加療。白血球数（WBC）は 30 病日まで 4,600～3,300/ $\mu$ l で推移。47 病日に体表リンパ節複数腫大から EBL を疑い、51 病日に鑑定殺。②乳用種雌 4 歳。乳房炎を疑い加療。WBC41,200/ $\mu$ l で起立不能、心音不整を呈す。2 病日に異型リンパ球 45.5%を確認し EBL を疑う。5 病日に死亡。③乳用種雌 5 歳。乳熱を疑い加療。WBC は初診時の 23,200/ $\mu$ l から漸減し 6 病日に 13,000/ $\mu$ l 。2 病日以降、腎臓及び浅頸リンパ節腫大し EBL を疑う。6 病日に鑑定殺。精密検査でいずれも EBL と診断。【まとめ】EBL の病態は多岐にわたり、初期の臨床症状や単回の血液検査では見逃す恐れがある。農場では常に EBL の可能性を念頭に置き、詳細な臨床症状の観察と抗体価や血液像の変化を適時確認することが重要。